時事新報

北海道の開拓手段

北海道は千里未開の沃野あして將來開拓の事業進むに從ひ無限殷富の地に至ること誰人も疑ひを挾まざる所なれど其嚆矢これを開拓するの方法手段に至りては既く者その說を同うせず試に一二を掲かんに或人は開墾抑も北海道の地味は甚だ豊饒にして無疑決して不毛ならずとに植ゑて百穀の熟せざるもの殆んどあるとなければ小麦、米、麻、糖蔗、蜀黍ゑん之人生必需の物品ゑして内地に用に應ずべきもの一ゑして足らざるのみの更に海外に輸送して國産の増殖を計りたらむ日本の富獨り北海道に依賴してこれを得ると客島あるゑん是即ち北海道を開くには農業を第一着とせざる可らざる由縁にして其方法は内地に農民を移し殖民耕作專ら開拓の道を立つるを要するなりと又或者は開ゑ未開の地を拓くに當り先きに農業と以てするは得策に非ず幸ひ今日の時勢に於ては日本人が肉食毛衣の民ゑるに至らんと必然の條理にして今より後ち牛羊飼畜の計を爲さんにと北海道を其適牧場と爲すと移業なりと云はざる可らず嗜ゑるべ兄と無候の事なると猛獸の害との二ゑを共塞地必ずしも敢畜に適せざるとも非ず其法宜きを得ば却て良好の結果を奏すること歐洲北部の諸國に於て此業の盛んなる所ゑる比照しても明白ゑり又猛獸の害れ如きも今日人智文明の進歩したる世の中に於ては之を防止するの手段容易なる可し加ふるに北海道の地味佳適なるに於て移植は疑かなる實に天然の牧場ゑり之と開くには牛羊は飼畜を盛大にせべきと無論ゑして牧畜先つ開けて農業これに次ぐと西洋諸國にも行はるゝ未開地開拓の常法なりと然るに他の論者は又說を爲して曰く北海道は内地を距ること遠からず海陸交通の至便なる今日に在ては之を以て製造工業の地と爲すは利益尋常ゑる所ゑらず土地廣く地價廉く勞働力を使用して百般の製造と都も容易なると内地と同論に非ざれば北海道は日本國民の仕事場として將來に利用すべきものゑりと此外尚ゑ開拓論者の其手段を數へたゑば道路を作るべし鉄路を先にすべ之域は鐵道論域は屯田說その方法多端ゑ殆んど錯綜して殆んど錯綜に苦しむの感ゑるを免れざるなり

[illegible]と共國家その局部に就て觀へた論れも條理ゑる次第なりして其事の全國に關はるたる所より觀るも北海道の開拓は最緊要ゑり其外一理ゑるは方法手段都て用ゐられずして唯ゆる無色假同ゑて其純色の賜光を帶ゑる者ゑれ其實體を如何と云ふに偏り目的を遠し得ゑるのみゑらず勞と費用に較べては時に意外の成迹なゑ[illegible]ゑるが如き現狀この不成功の迹を付て試に一家[illegible]んからばんと事の挙ゑると挙らざるとは利益[illegible]ゑるは[illegible]と百端の道理にして就中殖[illegible]ゑるは[illegible]ゑるは[illegible]ゑるは